

2020年12月期（第107期） 通期 決算概要資料

日華化学株式会社
(証券コード：4463)

2021年2月12日

1. 2020年度 通期業績

2020年度 通期 経営環境	4
2020年度 通期決算サマリー	5
セグメント別業績	6
売上高増減要因(対前年)	7
経常利益増減要因(対前年) 事業別	8
経常利益増減要因(対前年) 要素別	9
化学品セグメント 業績詳細	10
化粧品セグメント 業績詳細	11
連結キャッシュフロー	12
主な経営指標	13
設備投資・減価償却費 推移	14
2020年度 通期決算 総括	15
2020年度 下期トピックス	16～18

2. 2021年度 通期業績・配当予想他

2021年度 経営環境想定	20
2021年度 通期業績・配当予想	21
セグメント別 通期業績予想	22
設備投資計画	23
新中期経営計画発表スケジュール他	24

3. 参考情報

財務データ等推移	26
事業所・所在地別 売上高比率	27
コロナ感染拡大防止対策と稼働の状況	28
コロナ感染症拡大に伴うリスク	28
株主優待制度変更	29
会社概要	30

1. 2020年度 通期 業績

新型コロナウイルス感染症により経営環境は一変し、回復傾向が見られる時期があったものの「半導体関連」と「抗菌抗ウイルス・手指消毒剤」を除いては影響を受け、厳しい状態が続いた

■ 通期事業分野外部環境等（新型コロナウイルス感染症の影響含む）

繊維加工	日本		4Qにかけてカジュアル衣料小売りの一部で回復したものの、国内生産主体の中高級向け含めアパレルは厳しい状況が続いた。衛生材料・産業資材分野は一部大手は堅調に推移した
	海外		中国／消費回復で内需は回復したものの輸出は大きく減少した その他各国／ASEANの一部で回復傾向が見られたものの欧米向けは厳しい状況が続いた
自動車(乗用車)	日本・海外		販売 4Q/QoQ／日本(軽含)+14%・回復、中国+9%・活況継続、米国(小型トラック含)△2%・回復傾向 YoY／日本△11%(△54万台)中国△6%(△130万台)米国△14%(△240万台)
製紙	日本		家庭紙・衛生紙はペーパータオル需要増などもあり堅調、板紙はEC用途中心に需要増も、新聞・雑誌の減少、広告減による再生紙需要減が加速し、感熱紙需要は消費落込みで大幅減
クリーニング	日本		GO TOキャンペーン効果で一時回復傾向が見られたものの、クリーニング店、宿泊施設、飲食店共に通年では来客が大きく減少した
半導体	日本		前半は需要減があったものの後半で自動車、スマホ向けが大きく回復した
生活・環境 衛生関連	日本		抗菌・抗ウイルス剤／需要、用途が拡大してきた 手指消毒剤／需要が急拡大したがアルコールと容器の調達に制限があった 医療用洗浄剤／一時回復傾向がみられたものの病院外来・入院患者数共に大きく減少した
化粧品	日本		美容室来店客数は回復傾向が見られた時期があったものの、年間トータルでは大きく減少した ODM市場は当初案件先送りが見られたものの下半期は堅調に推移した
	海外		韓国／回復傾向を見せた時期があったものの美容室来店客は大幅減
数値指標 (前年比)	為替		2020年通期期中平均 米ドル・106.67円で2.5%円高、中国元2.5%円高、ウォン3.8%円高
	国産ナフサ	—	1Q/44,800円(QoQ+8.7%)、2Q/25,000円(△44.9%) 3Q/30,200円(△24.9%)、4Q/31,300円(△24.2%)

新型コロナウイルス感染症などの影響により大幅減収となったものの、一部の事業分野で下期に回復傾向が見られ、生活・環境衛生事業の拡大と抜本的なコストダウンが奏功し、利益は業績予想を大幅に上回り前年比でも増益を確保した

単位：百万円

	2019年度	2020年度	増減率	公表値 (10月29日)	達成率
売上高	46,191	41,179	△10.9%	40,000	+102.9%
営業利益 (営業利益率)	1,395 3.0%	1,416 3.4%	+1.5%	700 1.8%	+202.3%
経常利益	1,334	1,645	+23.3%	900	+182.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	900	1,044	+16.0%	500	+208.9%
年間配当(円)	16	10	-	16	-

※期末配当6円については3月26日開催の株主総会で決議予定

セグメント別では、化学品の減収減益幅は大きいものの、化粧品は増収増益となった

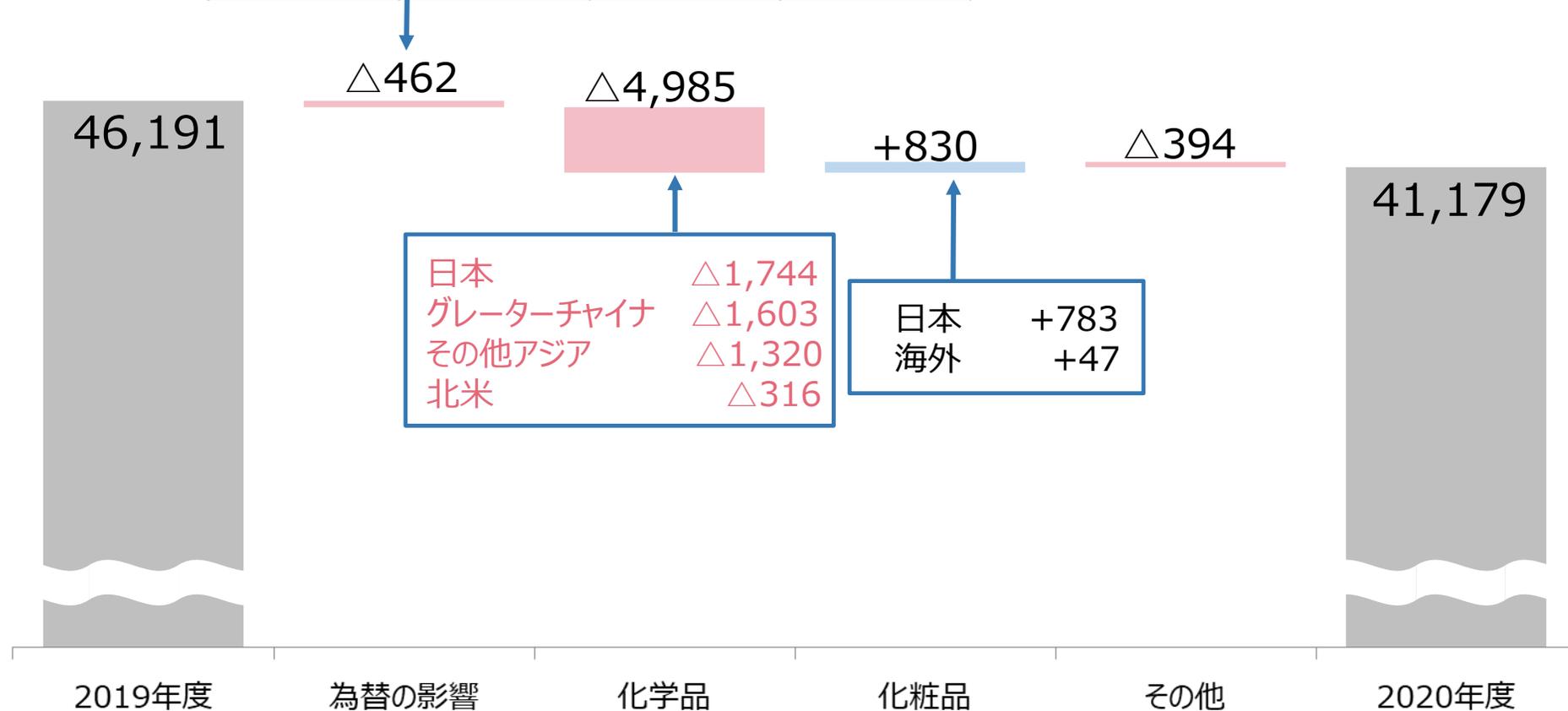
単位：百万円

セグメント	2019年度		2020年度		前期比		前期比	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	増減率	セグメント利益	増減率
化学品	33,890	1,441	28,496	842	△5,393	△15.9%	△598	△41.5%
化粧品	11,399	1,687	12,175	2,250	+776	+6.8%	+563	+33.4%
その他	901	99	506	43	△394	△43.8%	△56	△56.7%
消去等	-	-1,831	-	-1,720	-	-	+111	-
合 計	46,191	1,395	41,179	1,416	△5,011	△10.9%	+20	+1.5%

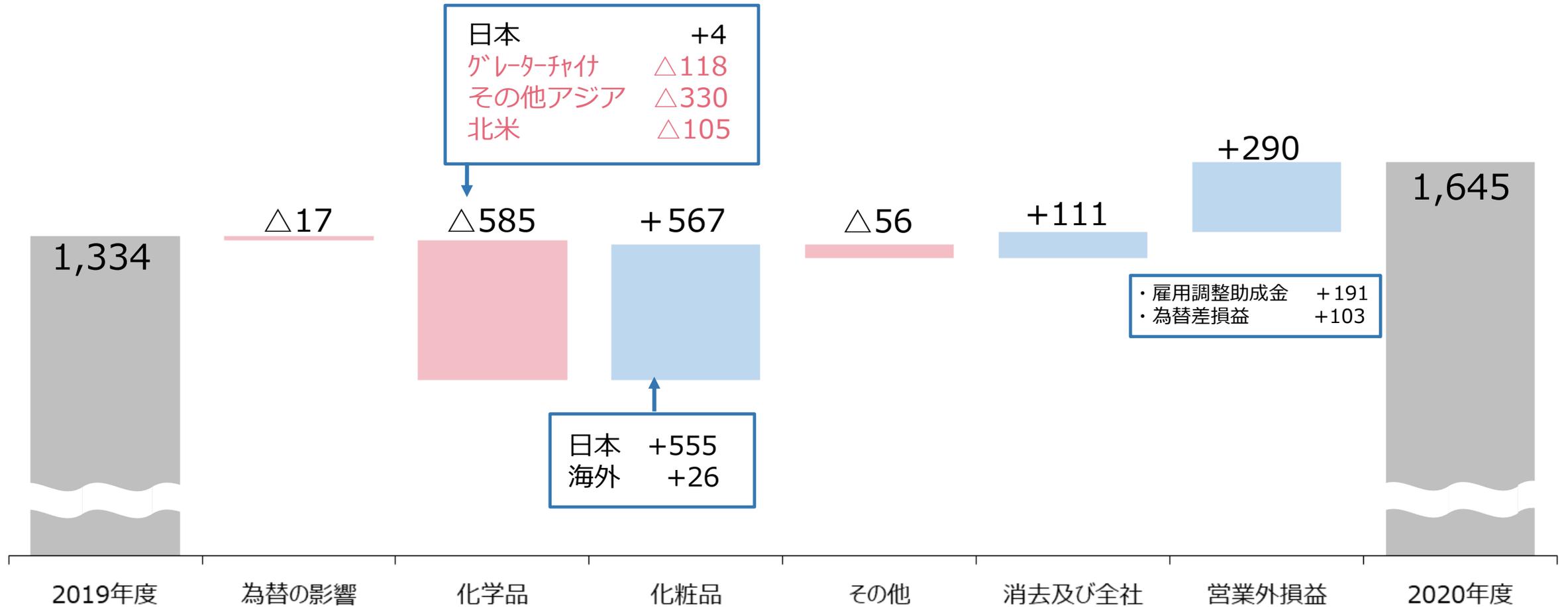
売上高増減要因（対前年） 単位：百万円

円高による影響で△4.6億円、化学品事業で△49.8億円の減収、化粧品事業で+8.3億円の増収
 化学品は各地域で減収となった一方、化粧品は主に国内で増収となった

期間為替	2019年度	2020年度	備考
米ドル	109.37	106.67	2.5%円高
中国元	15.837	15.435	2.5%円高

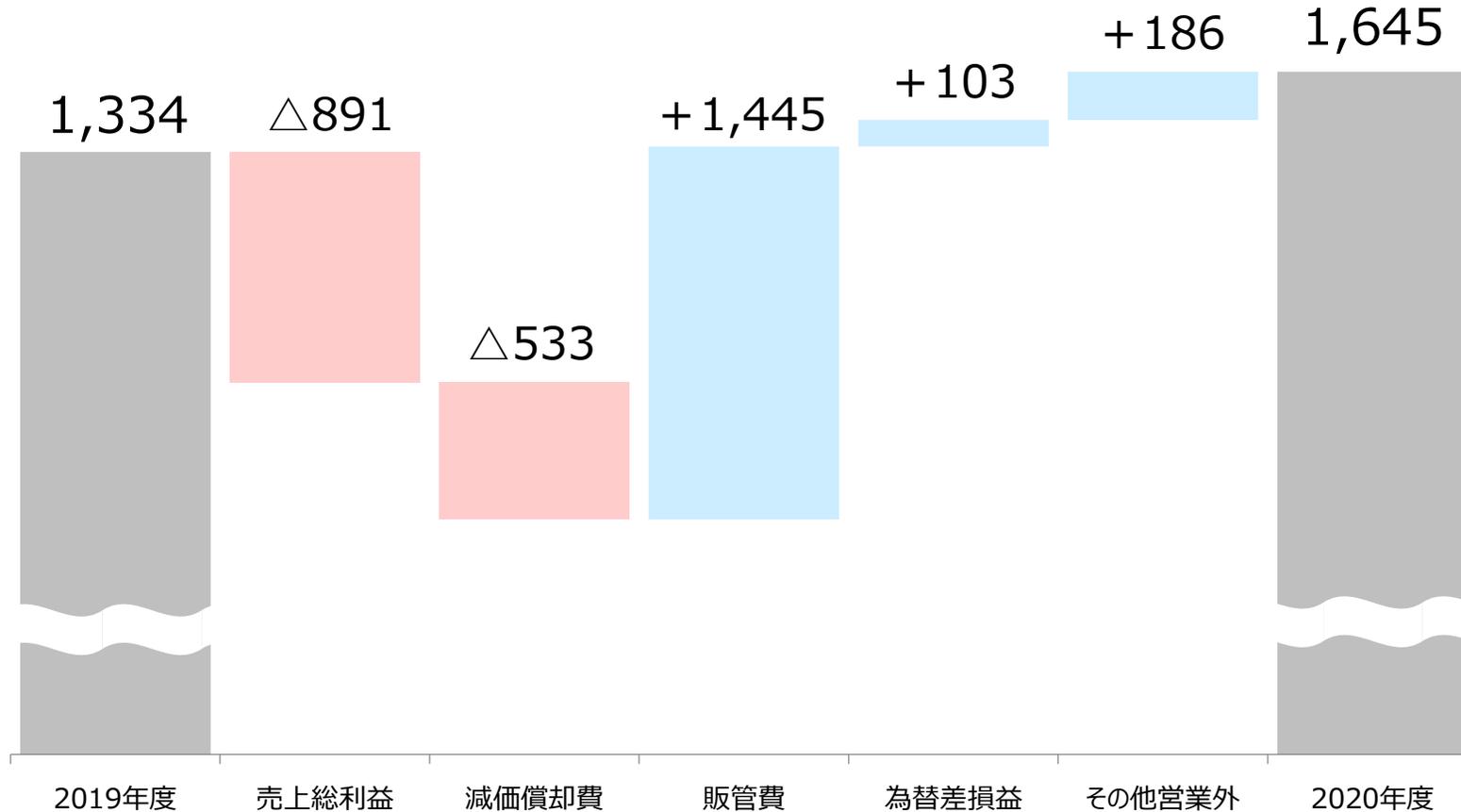


化学品事業で△5.8億円減益、化粧品事業で+5.6億円増益となった。化学品の海外の減益が大きかった一方、コストダウン等もあり国内の化粧品では大きく増益となった。また営業外損益による増益要因もあった。

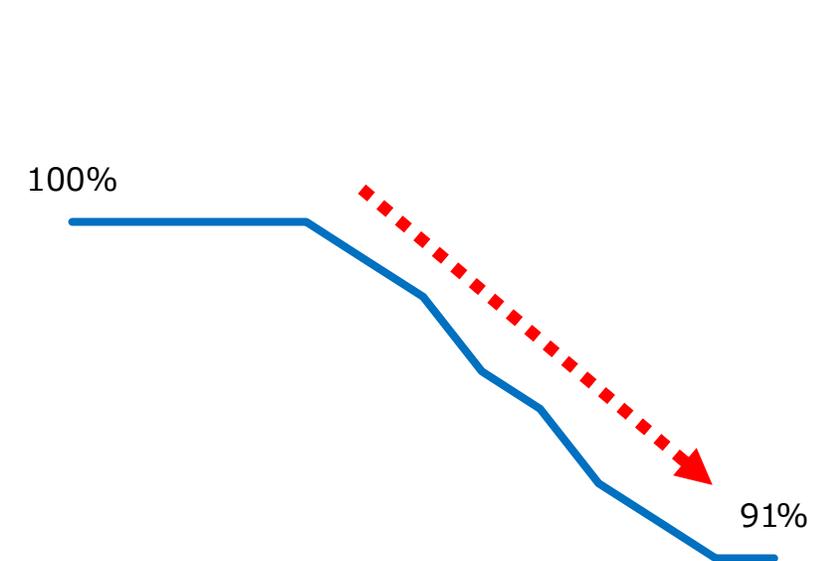


新型コロナウイルスによる市況の影響を大きく受け、売上高は約10%の減収
 設備投資による減価償却費も増加したが、大幅なコストダウンを断行したことで増益を確保

連結 経常利益増減要因（対前年）



単体 損益分岐点の状況



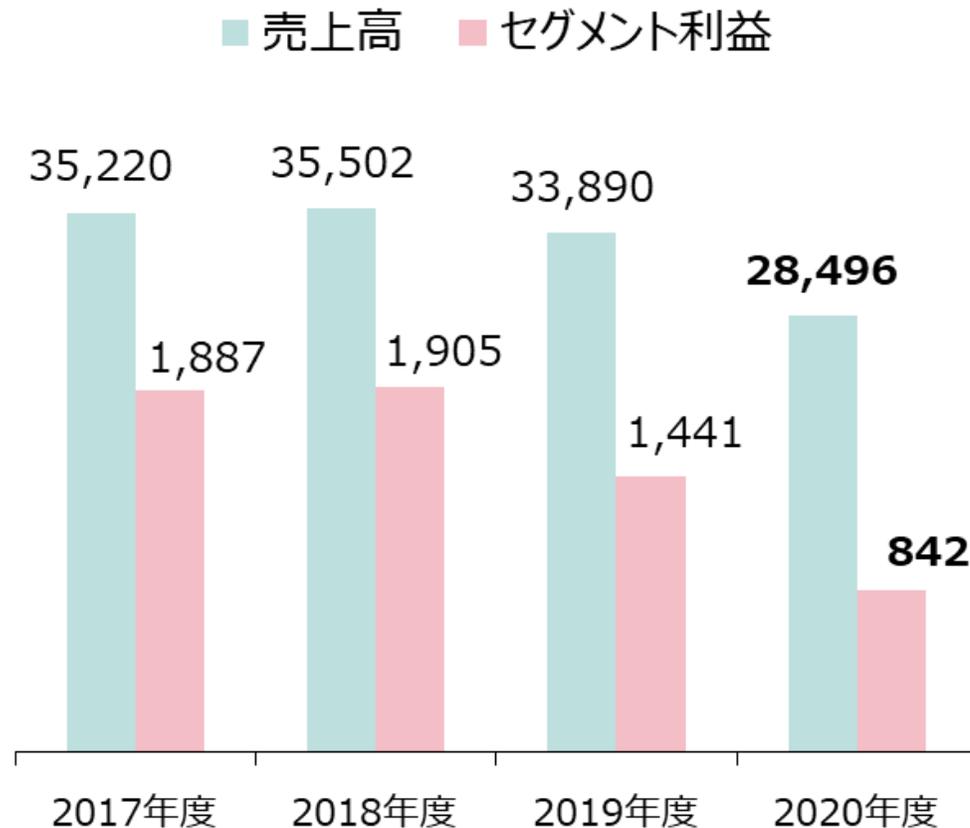
※2019年を100とした場合

12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
19年												
						20年						

2Q以降国内外で市場環境が特に厳しさを増し、下期で一部領域に回復基調が見られたものの繊維加工用薬剤等既存事業分野において厳しい状況が続き、グローバルで大幅減収減益となった

業績推移

単位：百万円



地域別売上高	2019年度	2020年度	増減額	増減率
日 本	14,345	12,600	△1,744	△12.2%
グレーターチャイナ	9,919	8,225	△1,693	△17.1%
その他アジア	8,328	6,715	△1,613	△19.4%
北 米	1,297	954	△342	△26.4%
合 計	33,890	28,496	△5,393	△15.9%

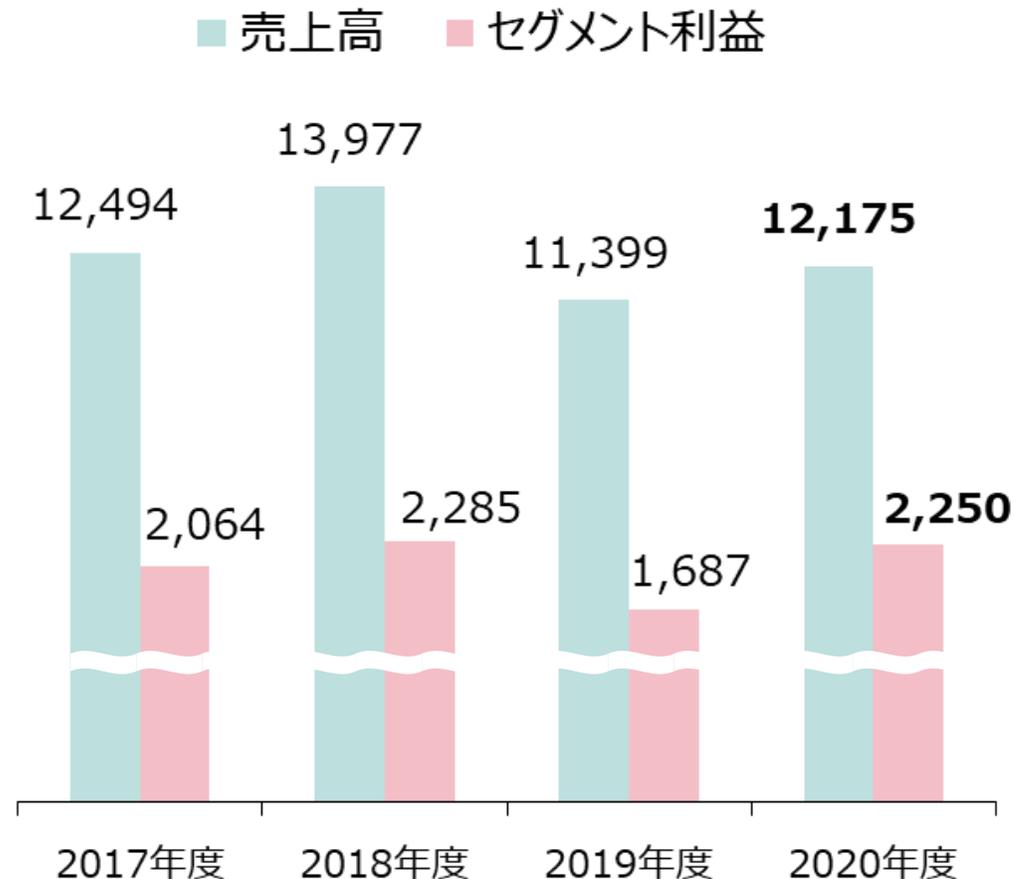
※為替影響 △408百万円

前期比概要

1. 繊維化学品分野は、中国国内向けや自動車生産など一部領域で回復基調が見られたものの、欧米需要落込み、自動車生産累計落込みに加え、暖冬の影響もあり、国内外で生産・販売大幅減
2. アジア各国／対アジア通貨円高による減収
3. 国内／クリーニング、宿泊施設、飲食各業界向け薬剤大幅減
4. 特殊樹脂モノマー、抗菌・抗ウイルス関連薬剤販売堅調
5. 前期実施鹿島工場2期工事、ニッカリア新工場等の減価償却費増

国内外とも美容室来店客が大きく減少し国内デミが減収となったが、コストダウンやODM事業と手指消毒剤の大幅増収で、セグメント全体としては増収増益となった

業績推移 単位：百万円



地域別売上高	2019年度	2020年度	増減額	増減率
日本	10,033	10,816	+783	+7.8%
海外	1,365	1,359	△6	△0.5%
合計	11,399	12,175	+776	+6.8%

※為替影響 △53百万円

前期比概要

1. 国内デミ／回復傾向が見られたものの美容室来店客数が大幅減の中
新商品効果で減収幅低減、コスト削減で減益幅圧縮
2. 山田製薬／ODM事業手指消毒剤関連販売大幅増とヘアケア大口顧客
受注回復で大幅増収増益
3. デミコリア／美容室来店客大幅減が続くも、新規取引先開拓、コスト
ダウンで増収(現地通貨バー)増益

営業CFは運転資金の減少により大幅に改善し64.7億円を計上

投資CFは今期はほぼ通常投資となり△15.4億円、財務CFは借入金の返済により△36.2億円を計上

期末減預金残高は16.5億円増の79.6億円、有利子負債は32.2億円減の163億円

単位：百万円

連結CF	2019年度	2020年度	増減額
営業CF	1,104	6,479	+5,375
投資CF	-2,139	-1,549	+590
財務CF	-229	-3,626	△3,396

指標	2019年度	2020年度	増減額
期末現預金残高	6,311	7,962	+1,650
有利子負債	19,530	16,301	△3,229

【連結CF】 2020年度 主な概要

● 営業CF +6,479

- ・EBITDAの増加 +4,187
- ・運転資金の変動 +2,022
(棚卸資産削減 9億円)
- ・法人税等の支払額 -402
- ・その他 +672

● 投資CF -1,549

- ・有形固定資産 取得 -1,334
- ・定期預金増減 -395

● 財務CF -3,626

- ・借入金の返済 -3,221
- ・配当金の支払 -326

増益によりROA,ROEいずれも増加。 ROEは雇用調整助成金による影響も増加要因
 EBITDAは増加、減価償却費は主にニッカコア新工場稼動で増加
 自己資本比率は主に借入金の返済により向上

金額単位：百万円

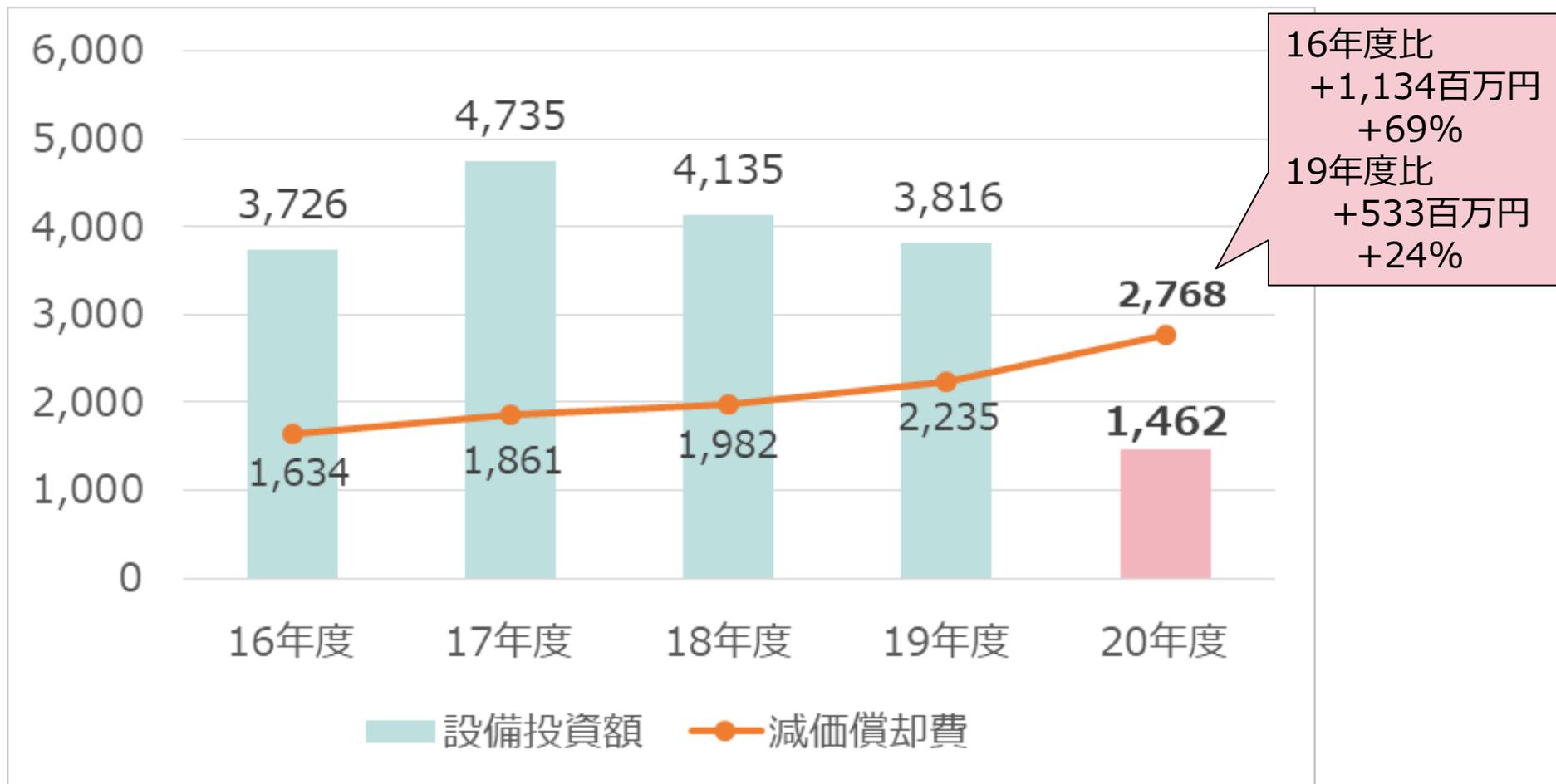
指 標	2019年度	2020年度	増減率・額
ROA(営業利益)	2.5%	2.6%	+0.1ポイント
ROE(当期純利益)	4.5%	5.1%	+0.6ポイント
EBITDA	3,637	4,187	+549
(減価償却費)	2,234	2,768	+533
指 標	2019年度	2020年度	増減率
自己資本比率	36.7%	39.5%	+2.8ポイント

設備投資・減価償却費 推移

設備投資は「改変期」（17-19年度）で大型投資を概ね完了

設備投資額 および 減価償却費

単位：百万円



減収増益

売上高（△10.9%、化学品△15.9%、化粧品+6.8%）

- ・一部の事業を除き多くの事業、展開地域で新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた
- ・特に化学品事業においてその影響は顕著であった
- ・生活・環境衛生事業分野の需要が拡大した
 抗菌・抗ウイルス剤、撥水剤(メディカルガウン用途)、手指消毒剤
- ・山田製薬ODM事業は手指消毒剤関連が大幅増となり、ヘアケア大口顧客からの受注が回復した

営業利益（+1.5%、化学品△41.5%、化粧品+33.4%）

- ・抜本的なコストダウンを断行した
 休業実施、残業削減、テレワーク積極取組み、役員報酬削減・返納、設備投資見直し 等
- ・売上ポートフォリオが変わったことで利益率が向上した
- ・化学品は減価償却費増の影響も大きかった

生活・環境衛生事業（消毒・抗菌・抗ウイルス剤）注力

- ・ ウィズコロナ、アフターコロナにおいて社会がより必要とする分野と認識
- ・ 化学品部門、化粧品部門共同で積極推進し基幹事業の構築を目指す
- ・ 展開分野／テキスタイル、手指消毒、クリーニング、環境衛生、その他
- ・ 安全性第一で、各分野に適した原料等を使用
- ・ 新組織により強力に事業を推進

抗ウイルス剤「ニッカノン」の応用展開

ウイルス試験設備稼働、
高機能塗料向け展示会参加 等、
新分野・用途への展開スタート



手指消毒剤「エコルセ」の拡販

福井県内を中心に
ドラッグストア等での一般販売
ヘアサロン向け販売 等をスタート



デミ コスメティクスより 新ブランド「UTAU」新発売（8月）

「歌うように、きれいに、暮らす」
をコンセプトにした植物由来成分配合の
ナチュラル系オイルブランド

全身に使えるリッチオイルセラムを始め、
幅広いラインナップでヘアケアはもちろん
ボディケアやスタイリングまで
厳選したオイルの恵みをご体感頂いています

DEMI

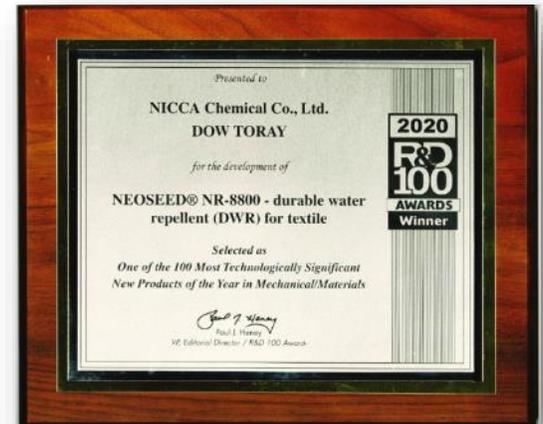


オイルを使用した
セルフケア・スタイリング紹介など
動画コンテンツ等も提供

「ネオシード® NR-8800」が2020 R&D100 Awardを受賞（10月）

フッ素フリー系撥水剤 ダウ社（米国・ミシガン州）との共同開発

- ① 世界的アパレル・スポーツメーカーは**有害懸念のある化学物質の使用・排出をゼロ**にすることを目標
- ② 健康と環境により優しい**フッ素フリー系撥水剤**の研究を積み重ね、**業界に先駆け グローバル展開**
- ③ 「**ネオシード®シリーズ**」は、世界の大手アパレル・スポーツメーカーにて採用が進んでいる



R&D100 Awardとは・・・

- 米国R&D World Magazine主催 世界的に権威ある技術賞
- 1963年より「技術の優位性」を評価基準に表彰実施
- 産業界・学界・政府支援による研究が対象
過去1年間に実用化された製品・技術の中から最も優れた100件を選出

2. 2021年度 通期業績・配当予想他

2020年に引き続き、「半導体関連」「抗菌抗ウイルス・手指消毒剤」「自動車」を除いては、新型コロナウイルス感染症の影響が続くと見込む

■ 事業分野外部環境／2021年通期想定

繊維加工	日本		消費動向の一部回復によりアパレル販売に改善が見られるものの、本格的回復は不透明 衛生材料・産業資材分野は堅調が続く見通し
	海外		中国内需向け堅調も欧米向け加工は依然厳しい見通し
自動車	日本・海外		グローバル生産台数は通期で前年同期比12%増見込、各国で生産台数回復も半導体調達難で先行き不透明、BC水準回復は'22見込
製紙	日本		家庭紙・衛生紙、書籍分野は巣ごもり傾向もあり堅調で、ECも引き続き堅調に推移の見込み 新聞・雑誌等の広告減により再生紙需要減が続く、感熱紙は消費回復傾向もBC水準まで戻らず
クリーニング	日本		クリーニング店/在宅勤務定着化でビジネスウェア減、ホテル/インバウンド回復遅れ&企業の出張自粛、飲食店/時短営業&休業
半導体	日本		DX、5G向けで需要増 グローバルで8%伸長見込
生活・環境 衛生関連	日本		抗菌・抗ウイルス剤/需要、用途が引き続き拡大見通し 手指消毒剤/高い需要が定着し 資材調達も安定化見込 医療用洗浄剤/外来・入院患者減が続く見通し
化粧品	日本		足元の緊急事態宣言長期化の影響も含めBCレベル比で大幅減が続く見通し ODM分野も先行き不透明感が強い
	海外		韓国/20年比では回復傾向もBCレベル比で大幅減が続く見通し
数値指標	為替	—	前提 期中平均 円/米ドル・105円的前提
	国産ナフサ	—	前提 35,000円

※緊急事態宣言・ロックダウンの長期化等、新型コロナウイルス感染症による影響が現況に比して悪化した場合は、外部環境も悪化する可能性があります

主に化学品事業における販売増により前年度比で増収・営業利益増益を予想

単位：百万円

	2020年度 実績	2021年度 予想	前期比	
			増減額	増減率
売上高	41,179	43,500	+2,320	+5.6%
営業利益 (営業利益率)	1,416 3.4%	1,500 3.4%	+83	+5.9%
経常利益	1,645	1,500	△145	△8.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,044	1,300	+255	+24.5%
年間配当 (円)	10	12	—	—

化学品事業は増収増益、化粧品は微減収減益、その他事業はほぼ横ばいを予想

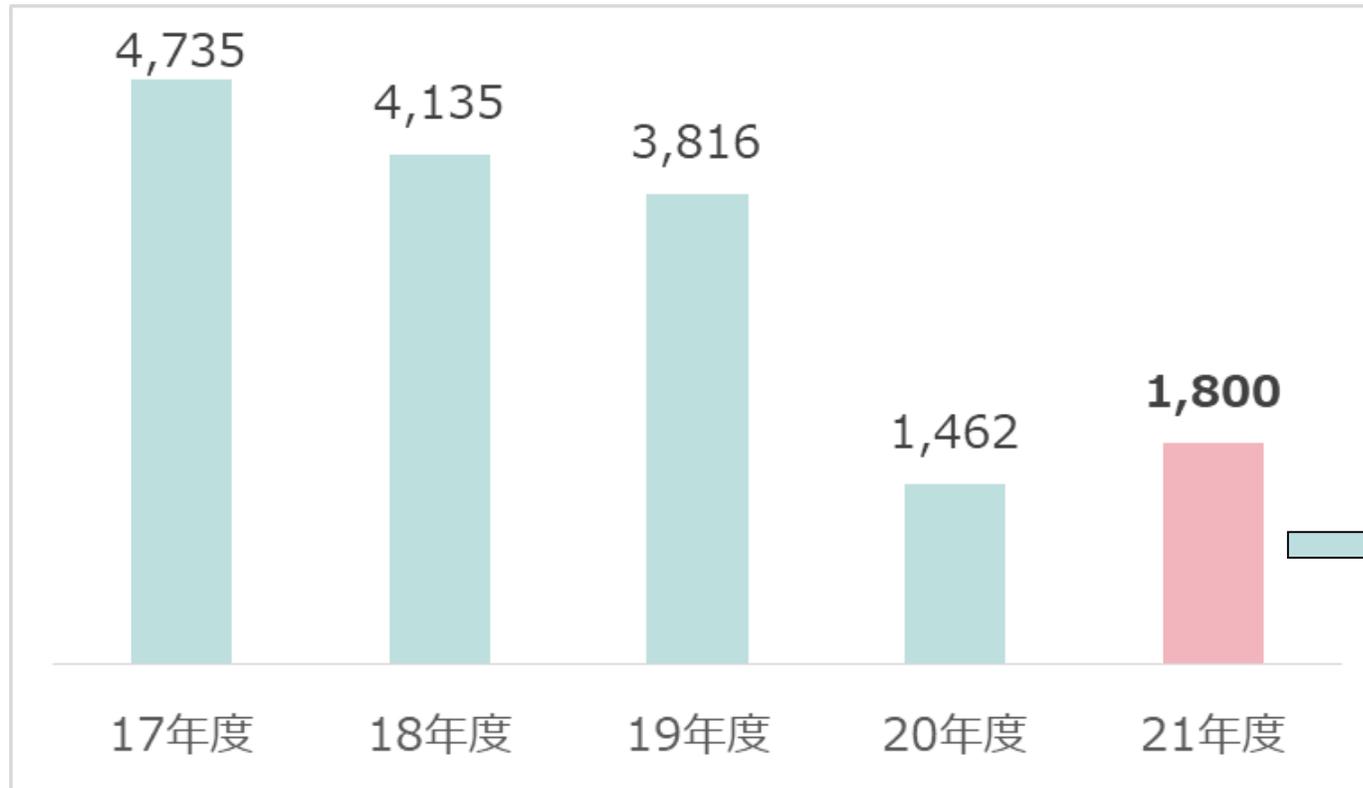
単位：百万円

セグメント	2020年度 実績		2021年度 予想		前期比		前期比	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	増減率	セグメント利益	増減率
化学品	28,496	842	31,000	1,050	+2,503	+8.8%	+207	+24.6%
化粧品	12,175	2,250	12,000	2,100	△175	△1.4%	△150	△6.7%
その他	506	43	500	50	△6	△1.3%	+6	+15.9%
消去等	-	-1,720	-	-1,700	-	-	+20	-
合 計	41,179	1,416	43,500	1,500	+2,320	+5.6%	+83	+5.9%

生産性向上、競争力強化のためのDX関連投資他を推進

設備投資額

単位：百万円



化学品	1,200百万円
化粧品	300百万円
共通	300百万円

- 新中期経営計画は 2021年2月26日(金)16時 発表予定
- 新役員体制も同日発表予定

3. 参考情報

単位：百万円

項目	2012/3	2013/3	2013/12	2014/12	2015/12	2016/12	2017/12	2018/12	2019/12	2020/12
売上高	31,022	31,651	37,736	39,931	46,527	44,223	48,493	50,188	46,191	41,179
EBITDA のれん償却額反映	2,498	3,008	4,606	4,697	4,696	3,174	4,056	4,292	3,635	4,187
(EBITDA率)	8.1%	9.5%	12.6%	11.6%	9.9%	7.2%	8.2%	8.5%	7.9%	10.2%
減価償却費 のれん償却額含む	1,455	1,349	1,584	1,832	2,332	1,716	1,940	1,991	2,240	2,771
営業利益	1,044	1,659	3,022	2,865	2,364	1,458	2,116	2,301	1,395	1,416
(営業利益率)	3.4%	5.2%	8.0%	7.2%	5.1%	3.3%	4.4%	4.6%	3.0%	3.4%
経常利益	1,103	1,798	3,390	3,073	2,443	1,588	2,171	2,430	1,334	1,645
親会社株式に帰属する当期純利益	495	1,261	2,758	1,447	1,152	347	1,388	2,458	900	1,044
1株当り当期純利益(円)	28.11	71.65	152.20	82.22	70.13	22.09	88.48	156.68	57.33	66.4
配当金(円)	10	15	16	16	20	20	16	18	16	※ 10
自己資本比率	27.8%	32.7%	40.1%	45.2%	36.4%	33.3%	34.4%	35.6%	36.7%	39.5%
ROE	5.0%	11.4%	18.8%	8.2%	6.2%	2.0%	7.8%	12.6%	4.5%	5.1%
ROA	3.1%	4.6%	7.6%	6.9%	5.2%	2.9%	4.0%	4.1%	2.5%	2.6%
研究開発費	1,730	1,807	1,659	1,786	2,096	2,035	2,065	2,219	2,289	※※ 2,019
従業員数(人)	1,158	1,172	1,182	1,228	1,373	1,418	1,472	1,479	1,496	1,500

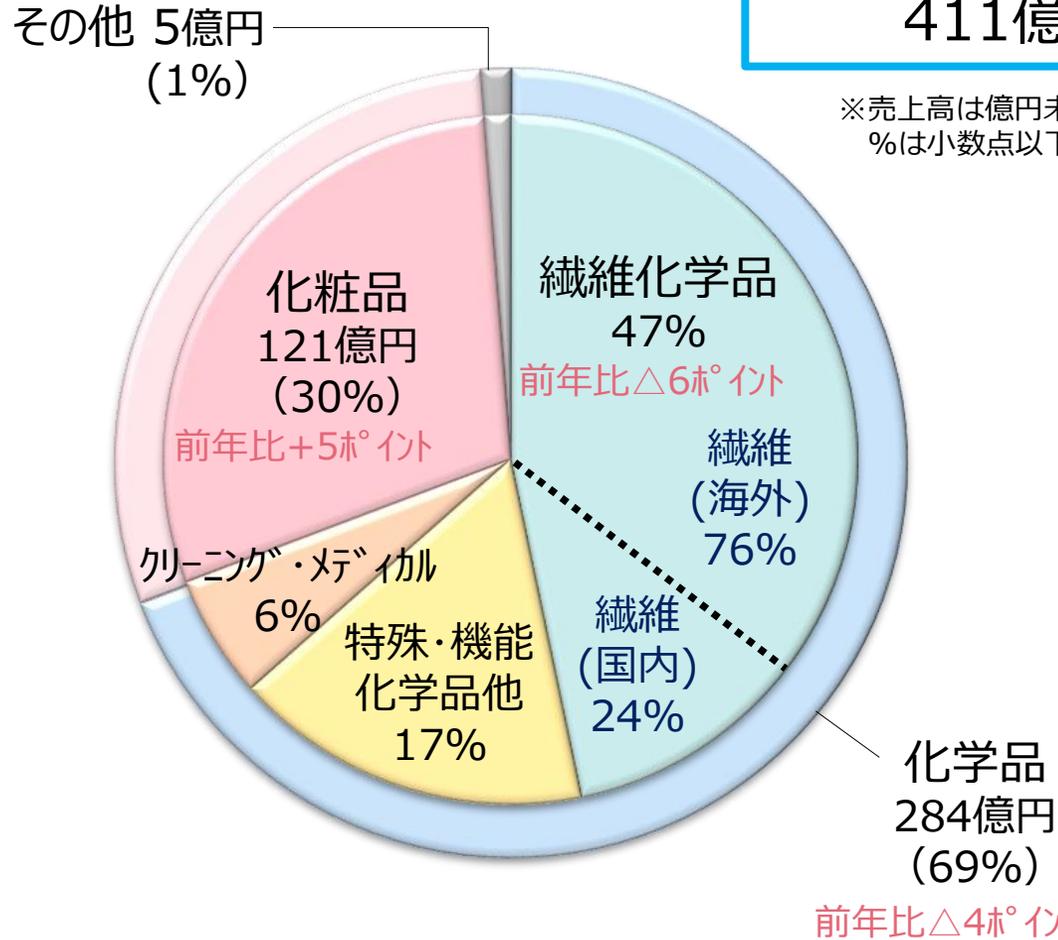
※ 2020年12月期年間配当金のうち期末配当6円については2021年3月26日開催の株主総会で決議予定

※※ 見込値

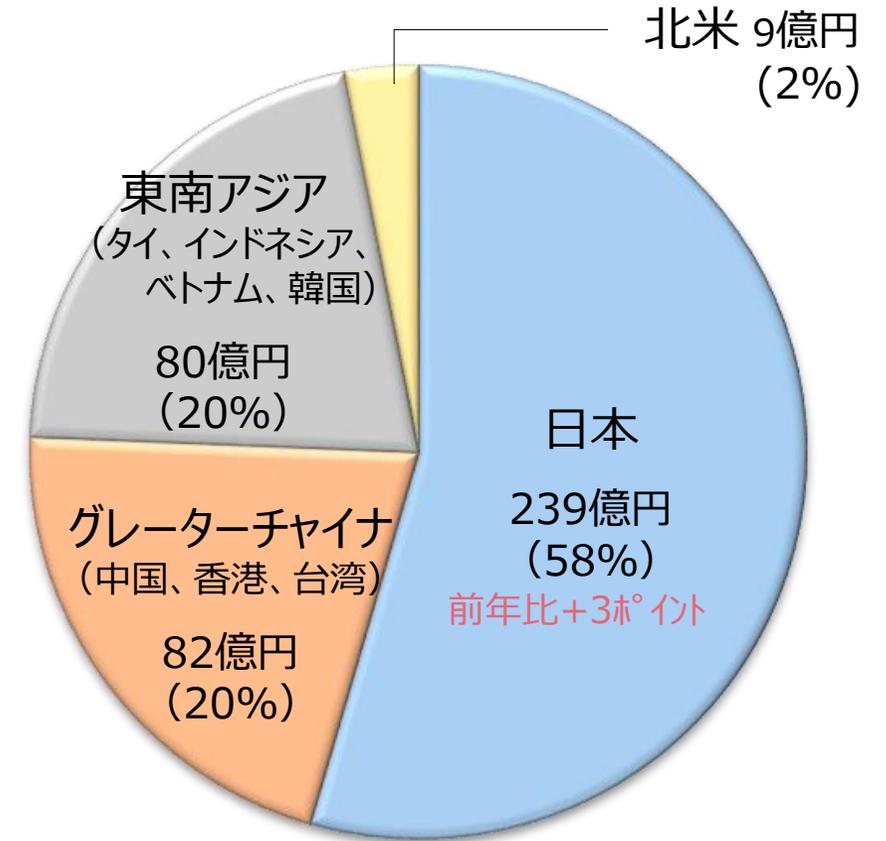
事業所・所在地別 売上高比率

■ 売上高比率は化学品事業で全体の69%、化粧品事業で30%で前年同期比で化粧品比率が5ポイント増
 繊維化学品だけで全体の47%、その内海外が76%。所在地別では海外比率は42%で前年同期比で3ポイント減

【事業別売上高比率】



【所在地別売上高比率】



■新型コロナウイルス感染拡大防止対策と稼働の状況（第4四半期）

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に伴い、世界経済、社会生活への影響が多大となっている状況下において、当社グループは事業活動地域での感染拡大防止に努めるとともに、社員の安全を確保し、事業への影響を軽減すべく努力を継続しています。現時点の当社グループにおける新型コロナウイルス感染拡大防止対策と稼働の状況は、以下の通りです。

1. 日本国内での状況

- ・工場、子会社を含む全拠点で、社員の毎朝の検温、発熱等体調不良時の出社自粛、また来客の入場時検温・手指消毒の協力依頼等、徹底した安全確認を実施した上で稼働しています。
- ・本社、各支店においては、在宅勤務に加え、リモート・出社・顧客訪問のハイブリッド型働き方を推奨しています。また、通勤時間帯の分散を促進する目的も含め、フレックス勤務制度の拡大運用を実施しています。
- ・不要不急の出張を避けるとともに、公共交通機関を利用する場合にはマスク着用・携帯用手指消毒剤使用を徹底しています。
- ・執務スペースでのパーティションやビニールカーテンの設置、また換気の徹底など、密閉・密集・密接の状態を作り出さないように努めています。

2. 海外子会社での状況

- ・ほとんどの事業所において、日本国内に準じた対応で社員・取引先の感染防止対策を実施しています。
- ・全ての事業所において通常操業を行っています。

■新型コロナウイルス感染症拡大に伴うリスク（第4四半期）

新型コロナウイルス感染症の拡大は、世界的な規模で感染者が増加し、社会経済活動に大きな影響を及ぼしております。当該感染症の影響により、当社グループでは一部の製商品において需要の減少が継続して発生しました。

今後、新型コロナウイルス感染症の拡大が長期化することにより、一部の製商品について需要が一層落ち込むほか、予想を上回る規模の事業所の操業停止、原材料の調達難による生産停止、物流機能の停滞等に至った場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に大きな影響を及ぼす可能性があります。

■ 当社デミ コスメティクスのヘアケア・スタイリング商品の中から自由選択方式に変更

DEMI

メーカー希望小売価格（税込）

保有株式数	優待内容
500株以上～1,000株未満	合計5,000円以内
1,000株以上～3,000株未満	合計7,000円以内
3,000株以上	合計12,000円以内



■ 対象商品

ヒトヨニ、ウェーボジュカーラ、ヘアシーズンズ、ヘアシーズンズ アロマシロップス、ハレマオ、ビオーブ、ビオーブ フォーメン、ビオーブピュリムを予定



商号：日華化学株式会社（証券コード 4463）

本社：福井県福井市文京4丁目23-1

創立：1941（昭和16）年9月15日

資本金：28億9,854万円

発行済株式数：1,771万株

決算期：12月31日

従業員数：連結／1,500名 単体／612名（2020年12月31日現在）

事業内容：繊維を主とする各種産業用界面活性剤および化学品、化粧品等の製造・販売

上場証券取引所：東証1部、名証1部

Activate Your Life



この資料には、2021年2月12日現在の将来に対する見通し及び計画に基づく予測が含まれています。
経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があります。

<お問合せ先>

日華化学株式会社 経営企画本部 IR担当

TEL:(0776)25-8584 (直通) FAX:(0776)25-4798

E-mail : matsushima@niccachemical.com